



山崎百々雄〈挿絵原画「英雄ここにあり」柴田錬三郎〉



伝俵屋宗達〈はんかい草の図〉
江戸時代 17世紀

挿画の鬼才 山崎百々雄展

第3・4展示室

前田藤四郎と甲冑・陣羽織〔後期〕

前田育徳会尊經閣文庫分館

琳派

第2展示室

優品選

第4・6展示室

生活の中の工芸

第5展示室

- 7月の企画展示室
- 7月の行事予定
- 新収蔵品紹介
- バスツアー報告

- ミュージウムレポート
- 展覧会回顧「脇田和展一鳥に詠うー」
- 企画展Topics
- アラカルト ただいま展示中

前田育徳会尊經閣文庫分館
名物前田藤四郎と
甲冑・陣羽織 [後期]

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

第3・4展示室
挿画の鬼才
山崎百々雄展

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

今回「名物前田藤四郎」の公開をきっかけに、石川県立美術館の存在を知ったという方が多くいらっしやいます。また近年、刀剣を鑑賞することができる美術館として当館が紹介される機会も多くなりました。これまで、どちらかといえば加賀文化といえば美術工芸に重点が置かれる傾向がありました。加賀文化を推進した加賀藩主・前田家の姿勢は、先祖と定めた菅原道真にならい文武二道の精神を根幹としています。そこで、武の側面から加賀文化を包括的にとらえ直していただく一助となれば、との思いで今回の特集を企画しました。

名物刀剣の所持は武家のステータスを如実に示すものであり、昨年「加賀前田家百万石の名」という言葉をのこしています。対して画家の立場からは木村莊八が、本文と挿絵の関係を「浄瑠璃の太夫と絃」に譬え、その相乗効果を述べています。この譬えは腑に落ちる物があり、挿絵は読者の目を惹くだけでなく、その想像力を刺激し、想像世界を広げるものといえないでしょうか。また、挿絵画家にはそれだけの技量が求められるのです。昭和文芸界で華々しく活躍した司馬遼太郎や池波正太郎、柴田錬三郎らの名作に多くの挿絵を提供した山崎百々雄の作品も、読む人の想像をはるかに超えた世界を提供したはず。わずか 20センチメートル四方に描かれた情景は、登場人物の心情から悠久の歴史まで、壮大に描きだしています。

「宝」展で展示された三口とともに「名物前田藤四郎」が伝えられたことは、前田家が藩祖・利家以来天下人と渡り合える家柄だったことを雄弁に物語っています。それゆえに、その家柄にふさわしい装いが戦場でも求められたことは言うまでもありません。今回展示している甲冑と陣羽織は、こうした社会的要請を背景として制作されたものです。特に注目いただきたいのは、学者大名として世に知られた五代藩主・前田綱紀が所用したものです。たとえば陣羽織では、《百工比照》に「羽織類絵図」があるとおり、綱紀は諸大名の陣羽織の形状や意匠を体系的に調査したことがわかります。そこには、自身が着用するもののオリジナリティを検証する意図もあつたと考えることができます。

前号でふれたように、日本には古来、「文学と絵画が融合した文化」が根付いており、そのような土壌からは多くの名作が生まれました。江戸時代末には読本に浮世絵師による挿絵が付き、人気を博します。そして明治に入ると新聞に掲載された、いわゆる「新聞小説」が新聞の売れ行きを左右するようになります。そこでも挿絵の持つ訴求力は高く、月岡芳年、水野年方、梶田半古、鏑木清方ら浮世絵系の画家が大いに筆を揮いました。



挿絵 山崎百々雄
《池波正太郎「さむらい劇場」より》

第5展示室

生活の中の工芸

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

「組み合わせ」を楽しむことが、生活の中に工芸品をいかす醍醐味である―先月号ではこのように記しました。同じ目的のためにつくられていても、素材や形態の違いによって印象はがらりとかわります。生活の様々な場面において、ふさわしい品を選び、組み合わせる。これは誰しも、字義通り日常的に経験していることでしょう。

さてこの「組み合わせ」、茶道においては「取り合わせ」と名を変え、茶わん・棗・茶杓・釜・水指など、ありとあらゆる種類の工芸品が一堂に会します。取り合わせから生まれる調和や変化を楽しむことは、茶道の大きな魅力のひとつです。とりわけ当館の位置する金沢は、加賀藩政期から茶の湯文化がさかえたことで知られ、現在でも生活の中で



北大路魯山人《染付波飛魚図水指》

第2展示室

琳派

6月16日(木)～7月18日(月・祝) 会期中無休

今回は、俵屋宗達と尾形光琳をつないだ重要な画家である、俵屋宗雪と喜多川相説の作品に注目したいと思います。宗雪の県文《群鶴図》は、やまと絵の伝統に立脚した宗達様式と、漢画的な狩野派様式の融合を図った意欲作です。特に鶴の羽に認められる線描による力強さの表現は、狩野派の深い学習をうかがわせるものであり、群鶴というモチーフの選択と合わせて「武家好み」を念頭に置いた作品と解釈することができます。そして、このような宗達様式からの飛躍は、加賀藩三代藩主・前田利常というパトロンの強力な指導によるものと考えられます。

続いて相説の県文《秋草図》です。萩、薄、芙蓉、菊、葉鶏頭、桔梗、葛、数珠玉、壇特、秋海棠などの

秋草が、淡彩を基調として時に鮮やかな彩色を交えながら律動感をもって描かれています。江戸時代には、本草学への関心が高まったことを受けて、動植物の図譜が数多く制作されました。本作には、図譜の形で紹介されてきた植物を、より自然な形で表現しようという意図が感じられます。それは、本草学から実際の自然観察へと、鑑賞者の向学心を高める教育的配慮とも解釈することができます。こうした制作姿勢は、加賀藩五代藩主・前田綱紀の博物学的関心によって方向付けられたものと考えられます。綱紀は、自らフィールドワークを実践しています。そこで綱紀の目にふれる可能性のある草花図を描く画家たちは、かなり緊張したのではないのでしょうか。



県文 喜多川相説《秋草図》(左隻)

今月の企画展示室

第8・9展示室

第37回 清光書展

7月14日(木)～18日(月・祝) 会期中無休

第4・6展示室

優品選

6月16日(木)～7月18日(月・祝)
会期中無休

本県ゆかりの油彩作家の特徴は、人物、風景ともに、重厚でオーソドックスな表現を基調としていることでしょう。むろん写実や幻想といった、方向性の違いはありますが、対象を見据えて描く形の確さ、そして、油絵具という画材の構築性を存分にうかがわせる絵肌へのこだわりは、共通しています。今回の優品選では、鴨居玲の《1982年私》、清水鍊徳の《戸隠山》、高光一也の《ボンペイの旅Ⅱ》、南政善《黒いタイツ》、宮本三郎裸女達に捧ぐなどの名品と共に藤森兼明、村田省蔵など現存大家の作品をご覧ください。

彫刻では以下の二点を紹介します。松田尚之《人魚》は物語に登場するマーメイド姿のもので、膝から上を女性、下を魚で表しています。空想上のものを

書は文字を素材とする―芸術である。ことばが文字で掲載され、その字を美しく書く。書の歴史は、用美一体のなかでそれを芸術にまで昇華させた世界に誇りうる文字を素材とした芸術である。その文字が漢字と仮名である。文学作品のうち、その短いものは書との合体した美が創出できるはずである。文字を素材とする書―芸術的表現といえども、現代の人達の読めるものでなければならぬものである。

前会長氷田光風氏が逝去(平成十八年四月三十日)されて十年が経過した。清光書道会が主催する書展も、以後中断していたが、今回開催に併せて会長の「氷田清風所業七十年」の足跡としての資料を展示する。

◇入場無料

◇連絡先／金沢市泉野町四丁目二十番地十六号
電話：〇七六―二四四―七三五四

作品化するため、作者は大胆な形の強調・省略を行い、诗情溢れる作品としました。高橋清《人とトラロック》も古代中南米の雨と雷の神トラロックをテーマにした作品です。作者は硬い原木に鑿をあてながら素材との対話を通し、樹魂を感じさせる独自のフォルムを形成しています。

日本画の濱田観《初夏の花》は立葵を正面から捉えた大作。奇をてらうことなく、対象に忠実であろうとした作品です。石川義《山里》は竹藪のしゅい黄色とひっそりとした集落との対比も美しく、将来の日展史にも残ろうかという品格を備えています。

そのほか版画、素描では脇田和作品を中心に展示します。

七月の行事予定

■土曜講座		午後1時30分		美術館講義室		聴講無料	
2日(土)	光琳の継承者たち―京琳派の謎―					有賀	茜
9日(土)	前田綱紀と前田利為					高嶋	清栄
16日(土)	久隅守景《四季耕作図》を読み解く					村瀬	博春
23日(土)	日本の型紙とヨーロッパ美術					寺川	和子
■キッズプログラム		午後1時30分		2Fロビー集合		参加無料	
31日(日)	小学生親子鑑賞講座 「アートからへものがたりをつくる」						



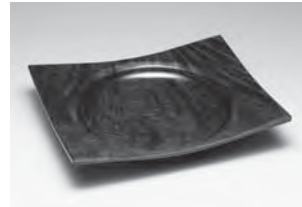
鴨居玲《1982年 私》

平成27年度

新収蔵となった作品

版画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	油彩画	日本画	日本画	日本画	木工	陶磁
あ！Eの海だ	一つ咲く花	二つの安居	ポンコツ車を誘導する鳥	少年と鳥	ジブシーの男	刻(とき)	刻・遠いみち	岸加八郎氏肖像	家族	静物	道	溪流に子ども	桑造方盛器	色絵瓜図輪花鉢 吉田屋窯
図⑬	図⑫		図⑪		図⑩	図⑨	図⑧	図⑦	図⑥	図⑤	図④	図③	図②	図①
他84点			他314点			他2点	他2点			他13点	他1点	他6点	他1点	
鬚嘸	脇田和	脇田和	脇田和	脇田和	脇田和	本山二郎	西田伸一	高光一也	有岡一郎	山本知克	西出茂弘	木村杏園	川北良造	
昭和四十六年	平成八年	平成七年	昭和五十六年	昭和三十二年	昭和三年	平成十六年	平成十五年	昭和二十八年	昭和五年	昭和二十七年	平成二十二年	昭和二十年代	平成二十四年	江戸十九世紀
本郷茂氏寄附	(購入)	(購入)	(二財)脇田美術館寄附	(二財)脇田美術館寄附	(二財)脇田美術館寄附	本山二郎氏寄附	西田伸一氏寄附	岸弘市氏寄附	池田模範堂寄附	山本喆子氏寄附	西出育美氏寄附	室谷勉氏寄附	川北良造氏寄附	石森昭文氏寄附

平成27年度新収蔵点数 443点
収蔵品総計(平成28年3月31日 現在) 3,739点



②

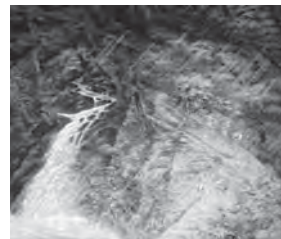
①



⑦



⑥



③



⑨



④



⑩



⑬



⑧



⑤



⑪



⑫

まちに守られた、平安のみほとけ —越前を旅する—

平成28年5月14日(土)

「まちに守られた、平安のみほとけ」と題し、福井県越前地方を巡りました。度重なる災害や戦禍、そして廃仏毀釈といった歴史の荒波を乗り越えた、貴重な文化財をご覧いただきました。

午前中はまず、福井市立郷土歴史博物館へ。学芸員・田中さんの説明を聞きながら、福井の歴史を追います。さらに養浩館庭園へ出て、美しい緑の中を散策しました。次に向かったのは大谷寺。泰澄が寂した地とされ、平安・鎌倉時代の仏像が数多くのこされています。西山住職が特別に宝蔵を開いてくださると、皆さま熱心にのぞき込んでいらっしゃいました。

越前そばの昼食をはさんで、朝日観音福通寺へ。正観世音菩薩立像前の扉が開かれると、ほう、という静かなため息が堂内を満たしていました。その感動もさめぬままに、近くの日吉神社へ。福通寺住職・藤川さんのユーモアを交えた解説に、笑い声も聞かれました。堂内には貴重な像が多数安置され、近世・近代と修理を重ねて大切にされてきたことが知られます。そして最後に向かったのは八坂神社。二手に分かれて宝物館、本堂へ。本堂では権祢宜の高橋さんから、平安時代の仏像が床下から発見された経緯をうかがいました。九十歳をこえてしゃきつと解説される高橋さんから、元気をもらったという方も多かったようです。

中にはゆったりと鑑賞する時間がとれなかった箇所もあり、申し訳なく思います。大きなトラブルもなくツアーを終えられましたのは、皆さまのご理解とご協力のおかげと存じます。この場を借りて、御礼申し上げます。



ミュージアムレポート

「版画ってなあに?」

五月八日(日)にキッズ・プログラム「版画ってなあに?」が行われました。ゴールデンウィークの最終日ということもあって、小さいお子さんをはじめとしたご家族連れでの参加がたくさんありました。小学校では紙版画や木版画の制作が行われておりますが、版画には紙や木などで作られた版というものがあること、そして、絵との違いである複数の作品ができることを確認し、展示室鑑賞を行いました。素描作品も含まれる展示室に入り、まずはどれが版画作品なのか捜します。複数枚制作できるという版画の特性から、作者が限定部数を保障する作品下につけられているエディションを手がかりに、小さい子どもたちも上手に見つけていました。次の版の種類を当てるクイズは、難しい問題でしたが、「家族で真剣に考え、話し合ったのが楽しかった」との感想も頂きました。最後は手軽な版画制作体験として紙版画、スチレンボード版画、ステンシル版画の中から好きな活動を選んで体験しました。講座後に書いてもらった子どもたちの感想には、「版画って楽しい!」という言葉がたくさん頂きました。



「脇田和展 一鳥に詠う」

平成28年4月24日(日)～5月15日(日)

今回の脇田和展は、新収蔵となった脇田和作品をドイツ留学時から晩年まで、油彩と素描を時代を追って、また多彩な創作をご覧いただくために、水彩画と版画をかなり多く展示しました。前者が90点、後者が60点です。壁面が窮屈かなという思いを持たれたかもしれませんが、脇田作品のお披露目ということで、どうかご容赦ください。

そのかわりに、2階コレクション第3、第4展示室に脇田和作品の小品を主体にお出ししたのですが、こちらは大変ゆつたりとした展示にいたしました。はっと息を呑まれた方もいらつしやったのではないのでしょうか。今後、脇田展を開催するときは、空間を大切にした展示をと考えています。

さて、企画展では、順に作品を追っていくと、ドイツでのかったりとした描写が、日本では曲線を主体とした童画的作風にと変わったことにまず驚きました。戦前期は唐草文様のようによくねくねとした曲線で都会の風俗を描くことが流行っていたのです。戦後海外の美術動向が伝わってくると、作風はドイツの鋭角的なものや戦前の和らいだものと混ざり合って、脇田芸術が完成していったことがうかがえます。さすが、脇田画伯自身が自己の基本作品として選び抜いて遺された作品群です。

よく、展示の際に、この絵のバックには赤色のパネルを、あの絵には黒のバックをなどと思ったりするのですが、今回はそうでした思いが全く起きませんでした。それは脇田作品の色彩から、主張の強くない淡い色の組み合わせでなりたつ美しい調和を感じるため、余計な色を加えたくなかったのです。

今後、毎年特集展示を、5年に1度、大規模展を開催していきますので、どうぞお楽しみに。



企画展 TOPICS

秋季企画展

「近代美術の至宝

—明治・大正・昭和の巨匠—

秋季企画展は展覧会名のとおり、明治・大正・昭和を代表する日本画、油彩画、彫刻、そして工芸各分野の作家、作品を展覧します。明治以降の名品を幅広くチョイスし、日本の近代美術のあゆみを概観いただく本展では、皆さまよくご存知の「あの作家」「あの作品」とご対面することとなります。しかし、そのような有名作品は必然的に各美術館の代表作でもあり、多くの美術館からのご協力がなければ成り立たない展覧会でもあります。

なかでも大変好意的にご協力くださった館のひとつ、京都府立堂本印象美術館の作品を紹介します。同美術館は日本画家堂本印象の個人美術館です。堂本印象は大正・昭和を代表する日本画家のひとりです。戦後いち早く日本画に抽象表現を取り入れた異能の画家といえます。そして指導者としても画塾東丘社を通し、没後四十年を経てなお京都画壇に有形無形の影響を与え続けているまさに巨人です。今回展示するのは第十回帝展出品作《木華開耶媛》。「古事記」などの神話に出てくる女神を画題に、描法から画材まで日本画の持つ力を遺憾なく発揮した一作です。堂本印象がモダニズムに移行する前の本作は、生涯を通じての代表作となりました。あまりにも有名な作品ですが、本県では初公開となります。このようにご協力いただいた美術館には感謝の念に堪えません。



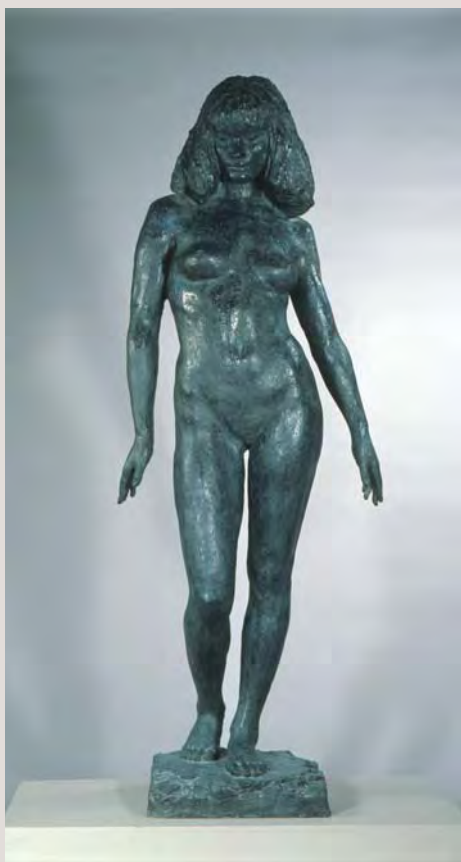
堂本印象《木華開耶媛》

古代への想い

昭和56年(1981) 高さ196×幅74×奥行51cm FRP

石田康夫 いしだ・やすお

昭和9年～(1934～)



作品はスタイルの良い伸びやかな肢体の女性が、両手を少し広げて佇む姿を表しています。作品は下肢からの量のうねりが、上体に伸び上がって繋がり、三角形の裾広がりな禿(かむろ)へと収まりをみせて、全体として安定感とシャープな存在感を示しているといえましょう。作者によるとタイトルは、長身のモデルさんのクレオパトラを連想させるような裾広がりのおかつば髪型に触発されたとのことですが、肩・両手・腰・地山などの巾がバランス良く決まってダイナミックな印象を生むプロポーシオンと、日本人女性にはあまり似つかわしくない独特の髪型とが相俟って、一種、古代彫刻にも通じるような

モニュメンタル性を持つ作風を感じさせてくれます。さらに作品はプラスチック製でブロンズにも見紛う着色ですが、作品のさっくりした粘土のタッチと錆感のある着色が奏功し時間の積層を連想させ、作品テーマとタイトルを補強しています。作者は金沢美術工芸短期大学専攻科修了以降、同校で教鞭を執り、現在、金沢美大名誉教授。作品は一貫して裸婦像をモチーフに、人体としての堅牢な構成美と、人体を通し人と社会を静かに見つめるかのような眼差しを感じさせてくれます。日展・日彫展及び、現代美術展を舞台に作品発表を続けられ、石川の地に地味ながらも確かな歩みを刻み続けています。

次回の展覧会

会期：
7月22日(金)～8月28日(日)

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室		ご利用案内 コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション 展示室無料の日(7月は4日) 今月の開館時間 午前9:30～午後6:00 カフェ営業時間 午前10:00～午後7:00 年中無休 7月の休館日は 19日(火)～21日(木)
財団設立90周年 前田利為の業績と コレクション		久隅守景		
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室	企画展示室	
夏休み優品選	文様がいっぱい	親子で楽しむ美術館 アートdeものがたり	ビアズリーと日本 会期:7月23日(土)～ 8月28日(日)	

ガン保険
チューリッヒ生命「終身ガン治療保険プレミアム」

既にガン保険にご加入されている方に
追加のご加入で、ガンの通院治療の保障を充実

●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円) ●保険期間・保険料払込期間：終身

●主契約：放射線治療給付金、抗がん剤・ホルモン剤治療給付金(給付月額20万円)
●特約：ガン先進医療給付金、ガン先進医療支援給付金(一括15万円)、ガン診断給付金(一括50万円)、悪性新生物保険料払込免除 ●保険期間・保険料払込期間：終身

月払保険料 1,500円 (35歳男性) / 1,500円 (43歳女性)

月払保険料 3,216円 (40歳男性)

自由設計プランで、ガンの通院治療と診断給付金と先進医療まで備える

今、ガン保険にご加入されている方も、ご加入されていない方も今すぐチェック!
通院治療が増加している時代の、画期的なガン保険

広告有効期限：2016年11月30日 募集16004-20160112
受付時間：10時～19時(日曜定休)
※一部の固定電話から繋がらない場合がございます。ZURICH
恐れ入りますが携帯電話等でおかけ直してください。

【募集代理店】
株式会社ニートン・フィナンシャル・コンサルティング
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-17-18

0037-6001-60140

※記載の保険料は2015年6月現在のものです。※この欄は商品の概要を説明しています。商品の詳細については、パンフレット、ご契約に関する注意事項(契約概要、注意喚起情報)等をご確認ください。

石川県立美術館だより
第393号(毎月発行)
2016年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/